HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	私の視点 ： 若者と薬物 ： 飲酒に甘い社会が入り口に
Author(s)	眞崎, 睦子
Description	東京本社版朝刊17面掲載
Citation	朝日新聞
Issue Date	2009-05-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60361
Rights	本著作物は、朝日新聞社の許可のもとに掲載しています。朝日新聞社の許可なく内容の全部又は一部を転載することを禁じます。(承諾番号26-0057)
Type	article
File Information	AsahiShimbun20090501_p17.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

私の視点

若者と薬物

飲酒に甘い社会が入り口に

眞﨑睦子（まさき・むつこ）　北海道大准教授（教育学）



大学生等、若者による薬物乱用が社会問題になっている。それはなぜか。理由の一つとして、日本社会の、薬物に対するあいまいな姿勢が挙げられるのではないか。

ゲートウエードラッグ（入門薬物）と呼ばれる薬物がある。医学的な根拠はないが、副作用や依存性の強い覚せい剤などの薬物乱用者の多くが最初に使用する薬物と指摘されているものである。その代表格が酒とたばこだ。

入手が比較的容易で、合法という点では、同様の扱いを受けてよいはずだが、社会の受けとめ方は大きく異なる。たばこには、タスポのような未成年者喫煙防止強化のためのシステムが導入され、公共の場所での全面禁煙化策が推進されている。しかし、酒に同様の措置が取られていないことは言うまでもない。アルコール飲料の販売は、駅などの公共の場所でも当たり前のように行われている。

私は「社会問題としての飲酒」という講義のなかで、無記名アンケート「飲酒に関する大学生の意識調査」をしている。未成年者を含む大学生の周辺には酒席に参加する機会があふれ、毎年、約4割の大学生が、飲酒を強要されたことが「ある」と答える。そのうち約半数が未成年者で、「仲間、特に目上の人からすすめられた酒を拒むことはできない」という。

「強要」とは、文字通り飲酒を無理強いされるということに加え、「一度断っても再度すすめられる」「同席者の多くが、先輩のすすめで飲酒をしている」「イッキ飲みなどのコール（音頭取り、手拍子）が起こる」状況であり、最近はやりの表現を使えば、「空気」を読むことが期待されることを意味するらしい。

多くの若者は、急性アルコール中毒の危険性だけではなく、長期的な飲酒の危険性についても具体的な情報を十分に持っていない。それどころか、この社会が、無礼講、縁起ものなどの表現のもと、未成年の飲酒に目をつぶってくれることを肌で感じている。多少の飲酒も、大きな事件にならなければ許されるということも日常的に学んでいる。

若年層が大麻を吸引する例も増えているが、彼らは積極的に大麻を使用したのだろうか。一部は飲酒の強要の例のようにたまたま同席した仲間や先輩からすすめられ、場の「空気」を読み、大麻を吸引したのではないか。

彼らにしてみれば、酒という「入り口」の薬物の先にあった薬物にちょっと手を伸ばしただけで、いきなり厳しい処分が待っているのだ。「マジで？」と反応する者がいても不思議はない。最近ではよく知られている大学名があがることも珍しくない。酒も大麻も、使用者の通う学校名や学歴に関係なく作用する薬物なのである。

投稿は〒104・8011（住所不要）朝日新聞オピニオン面「私の視点」係か、siten@asahi.comへ。ブログやホームページに掲載していないもの、新規の原稿に限ります。電子メディアにも収録します。